

薫風の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、益々
ご清福の段、大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を
表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

四月は北朝鮮ミサイル騒動の影響で地元の新田原基地や都城駐屯地は云うに
及ばず、遠く習志野駐屯地の観桜会まで中止となり、誠に残念至極でした。

従って私自身の予定も大幅に狂いましたが、七日の習志野駐屯地桜祭(中止)
及び空挺同志会総会に併せて開催した同期会には馳せ参じ、当時ご指導頂いた
班付や長崎から駆けつけた同期と、四十年振りの邂逅を果たした次第です。

昭和四十八年往時の建造物は僅かでしたが、降下塔や跳び出し塔等に青春の
血を燃え滾らせた我等の「空挺魂」は、今尚は健在だったような気がします。

曾て習志野原は江戸幕府直轄の大和田原と呼ばれた放牧場で、明治六年四月、
西郷隆盛麾下の近衛兵により、天皇親裁初の陸軍大演習が実施された所です。

天皇は演習を指揮した篠原少将の見事な采配に感銘され、篠原を見習えとの
「習篠原」の御言葉を賜り、それからここが「習志野原」と命名されました。

当時目黒に駐屯していた騎兵大隊の習志野移駐に伴い騎兵旅団が編制され、
三十年後の明治三十六年に「坂の上の雲」の主役の一人で「日本騎兵の父」と
呼ばれた皆様良くご存じの「秋山好古閣下」が、二代目騎兵第一旅団長として
この習志野駐屯地の歴史の一項目にいよいよ登場致します。

そして日露戦争時にはロシア兵、第一大戦時はドイツ兵俘虜收容所等を開設、
更に鉄道連隊が展開され、その後騎兵旅団から戦車旅団へと変貌を遂げました。

因みに旧陸軍空挺発祥の聖地は川南町の唐瀬原で、習志野駐屯地に臨時空挺
練習隊が移駐開設された昭和三十年からが、第一空挺団の歴史の幕開けです。

その時代の戦略や戦術の変遷、及び最先端兵器の出現に伴い、部隊運用等は
刻々と進化を求められ、戦史を紐解く度に「今日の成功は明日の成功を決して
約束するものではない」との古諺を、つくづく痛感させられます。

さて空挺団や習志野の事ばかりに紙幅を割きましたが、三月三十一日は宮崎
空港にて防大生十二名、自衛隊生徒十名の壮行会を挙行し、四月八日は五十八
期生徒入校式参加のため横須賀の武山駐屯地。又同九日、十日は宮崎護国神社
での戦没者慰霊行事支援に、当支部より八名の有志にご協力賜りました。

続いて二十二日は北熊本駐屯地の第八師団創立五十周年記念式典に参加し、
仲連隊長指揮する第二十四連隊と、藤原連隊長指揮下の第四十三連隊等の郷土
精鋭普通科連隊の整齊たる車両行進を、頼もしく拝見させて頂いたところ です。

絶好のシーズンを迎え、皆様の益々のご活躍を衷心より祈念致します。

平成 二十四年 五月 一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小倉 和彦

